令和八年度 緒方三社 川越しまつり

■とき

11月28日(土)

■ところ

原尻の滝周辺および
二の宮八幡社境内

■催し物のご案内

●午前11:00　三の宮社みこし　お発ち(花火合図)
●午前11:30　三の宮社みこし　宮田ご到着
●午前11:45　宮田にて神事
●正午12:00　三の宮社みこし　宮田お発ち
●午後12:45　三の宮社みこし　お旅所到着(原尻の滝河原)
〈一の宮社・三の宮社　出会い儀式〉
〈三社合同神事〉

●午後1:15　各社みこし二の宮八幡社へ移動・安置
●午後1:30　奉納神楽開始
●午後1:45　三社合同お神酒上げ
●午後2:15　三社合同お神酒上げ
●午後5:00　お神酒終了(みこし掛けお還り準備)
●午後5:30　還御祭神事　みこしお発ち
●午後6:00　三の宮社みこし　川渡し(花火合図)
〈一の宮社みこし　お還り〉

主催／緒方三社川越しまつり実行委員会　　後援／豊後大野市

【お問合せ】緒方三社川越しまつり実行委員会　TEL090－3324－6348

豊後大野市緒方支所　TEL0974－42－2111

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark

川越しまつりには、こんなドラマが・・・

緒方三社。それは久土知の一の宮社、原尻の二の宮社、上自在の三の宮社の３つです。いずれも、郷土の武将緒方三郎惟栄が建てたと伝えられています。

一の宮社には仲哀天皇(父)、二の宮社には応神天皇(子ども)、三の宮社には神功皇后(母)が祭られています。川越しまつりは、一の宮社のみこしと三の宮社のみこしが二の宮社に集まるものです。つまり、お父さんの仲哀天皇とお母さんの神功皇后が、子どもである応神天皇のもとへ行き、３人で楽しく過ごすわけです。このとき、お母さんの神功皇后は川を渡らなければなりません。このみこしが、フンドシ姿の若者達にかつがれ、川を渡る姿は勇壮です。

川越しまつりはどうして始められたの？

今から800年とちょっと前のことです。源頼朝の家来だった大友能直(よしなお)は、頼朝から豊後国の支配を任されました。その能直にとって、じゃま者がいました。そのじゃま者とは、郷土の武将緒方三郎惟栄(これよし)の一族、大野泰基です。泰基は朝地町の神角寺にたてこもりましたが、能直の兵、古庄四郎重能に見つけられ、討たれてしまいました。ところが、その後、原尻の滝で洪水や暴風雨が相次ぎました。緒方三郎惟栄の怒りだったのでしょうか……。

これから先に不安を抱いた大友能直は、原尻の二の宮社に緒方三郎惟栄と大野泰基の霊を祭ったといいます。これが川越しまつりの始まり、と伝えられています。

(「緒方の文化財」参考)